

浜松市教研 事務研究部 第2回研修会報告



令和6年7月25日(木)

会場：浜松市教育会館

事例研究「困ったさんのちょこっと研修」

(報告者：運営委員)

① 『私傷病休暇』取得編

近年、コロナやインフルエンザの流行により、私傷病休暇を取得する職員が増えていることもあり、身近な事例として取り上げました。

教職員課の山下さんのお話にもあったとおり、「職員が勤務できない状況などにより必要に応じて休暇を取得するもの」であることが前提となります。

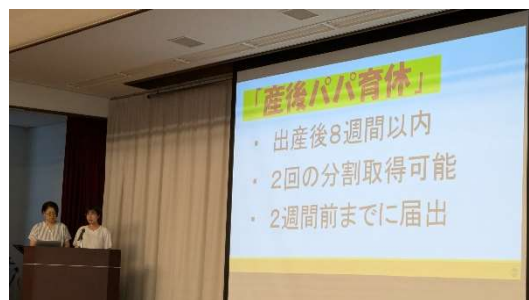
その上で、管理職、教職員課と連携し、対応することが不可欠です。職員から相談を受けた時には親身に耳を傾け、休暇を取得するにあたり必要な手続きや情報等、正しいことを伝えることが事務職員として大切だと思います。正しい知識をもち、職員が不利にならないよう働きかけていく必要があります。それらを再確認できたことが今回の研修の大きな成果だと思います。



② 『産後パパ育休』取得編

産後パパ育休は取得者が徐々に増えてきているとはいえ、まだまだ少ない事例の一つだと思います。私たちはまず概要を調べ、そこから困りごとや必要な事務処理を推測し、「服務」「給与」「共済互助」「その他(給食や教育会館拠出金)」への影響について勉強しました。

ちょこっとした研修ではありましたが、『初めての事例に当たったとき「きまり」や「影響」を知って、きちんと伝えるためには、どんなところから情報を得ればよいのかを知ることが肝である』という基本の「キ」に辿り着きました。そうした思いが皆さんに伝わっていたとしたら、うれしいです。



実践発表「6年生に向けたキャリア教育への取り組み」

発表者：浜松市立笠井小学校 坂下 好花

6年生に向けた夢授業(職業講話)についての実践発表が行われました。事務職員の仕事内容や目指した理由、夢を持ったきっかけやそのためにどんなことをしてきたのかを、児童に分かりやすい言葉で話し、焦らず諦めず、夢に向かって努力することの大切さを伝えたそうです。授業を通して事務職員の仕事の魅力を改めて感じたこと、児童と話す機会が増えたこと、教員と事務処理以外の話をするのができたことなど、多くのことを得られたとのことでした。

発表内で紹介された児童のコメントからも、坂下さんの授業が多くの児童の心に残るものとなったことが想像できました。



視察報告「愛知教育大学 教育ガバナンスコース視察について」

報告者：浜松市立丸塚中学校 齊藤 奈緒実

愛知教育大学にある教育支援専門職養成課程・教育ガバナンスコースの視察報告がありました。講義の様子や教授との懇談内容等が詳しく紹介され、専門的な知識とともに実践力を身に付けた人材養成を目的とした大学のカリキュラムや学生が学んでいる様子を具体的に知ることができました。大学院生の中には、現職の事務職員の方も学んでいるとのことでした。

現職である私たちは、日々の経験を強みとし新しい知識を取り入れることを怠らず、それを積み上げながら、学校運営等に積極的に関わっていかねばならないと感じました。また、大学での学びを、今後の研修にも取り入れながら、広い視野を持って学びを深めていきたいと思いました。



絵心なくてもOK! 考える力を鍛える ～ グラフィックレコーディング講座 ～



デザイナーの吉田瑞紀さんを講師にお迎えし、グラフィックレコーディングの活用法や書き方の基本、上達法についてお話をさせていただきました。

グラフィックレコーディング（グラレコ）とは「視覚的な記録」のことで、本やセミナーの要約、カウンセリング、会議の議事録等に活用できます。この研修では、練習問題を実際を書いて取り組み、イメージをどう表すか、言葉の意味を考えました。書いたグラレコを互いに見せあうことで、色々な表現の仕方があることに気づき、考え方の幅が広がりました。また、つい自分のイメージを追加して書いてしまいがちですが、その人が言っていないことは書かないということも大切だと学びました。複雑な話をどれだけシンプルに表現できるかが重要で、会議の場面で使うにはスピードが必要だと感じました。

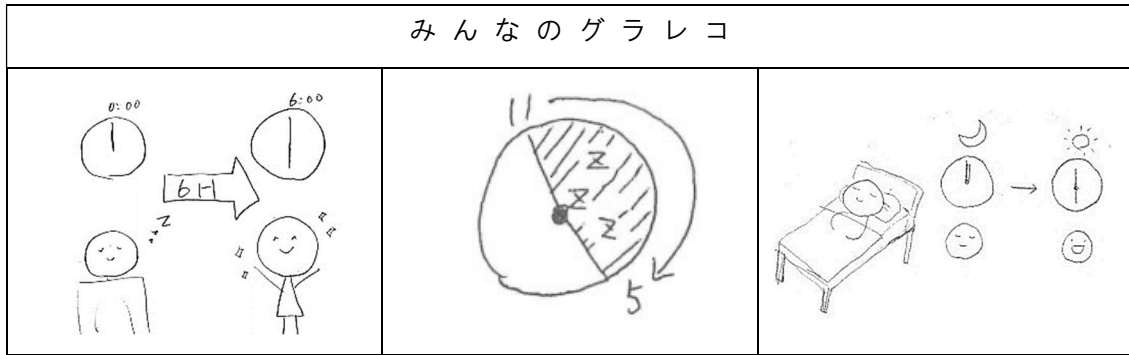
グラレコの上達法は、「引き出しを増やす」、「速さに慣れる」、「構造化する力を鍛える」とのことでした。言葉の意味を考えて、構造化する力を鍛えるということは、事務職員の業務にも役立つと思います。この研修を通じて学んだ、伝えたいことをシンプルに的確に表現する手法を、今後の業務に活かしていきたいと思いました。

《みんなのグラレコ紹介》

★ぼくの年収は妹の2倍だ

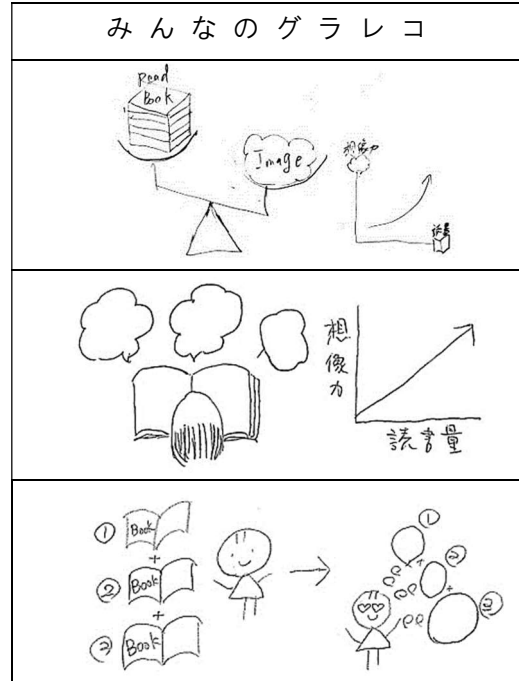
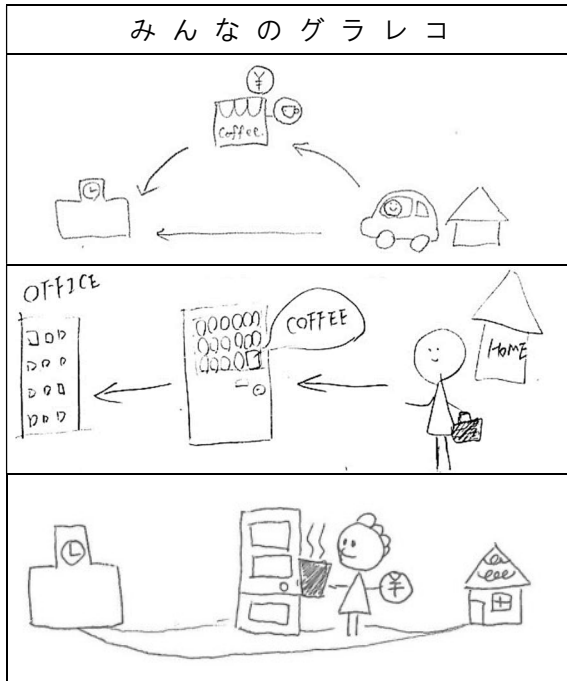


★1日6時間寝ている



★読書をするほど想像力が豊かになると
言われている

★通勤中にコーヒーを買って行く



《講師の吉田瑞紀さんよりコメントをいただきました。》

皆さま積極的にワークに取り組んでいただき、ありがとうございました。
グラレコに正解はありません。どうしたら伝えたいことを分かりやすく
伝えられるかなと、自由な発想で日常のお仕事や生活で活かしていただけ
たら、嬉しいです。



基調提案「育成指標について」

「挑戦し続ける学校事務職員を目指して～浜松市学校事務職員育成指標と共に～」

提案者：蒲小学校 主任 村松拓人（次世代育成委員会）



育成指標が示された背景や定義について共通理解し、浜松市の人材育成基本方針や教職員研修計画と関連づけながら、これから目指すべき事務職員像について提案がありました。

自身のキャリアに応じて示されているスキルを磨き、浜松市が目指す学校事務職員に近づいていくための「みちしるべ」として育成指標を活用していくこと、また、分散会に向けて、

求められる資質能力について、日常業務の中に落とし込み具体化して考えることで育成指標がより身近に感じられるような協議になることなどを期待し、それぞれが自身の成長につなげていこうとの呼びかけを行いました。

分散会「育成指標ことはじめ」

【一般ブース】

些細な悩みや困り感、何でも話し合って 仲間を増やして育成指標へつなげるためのグループ協議を！



【主任ブース】

自分の言葉で育成指標の資質能力を表現してみよう！



【副主幹ブース】

副主幹というキャリアについて考え、キャリア達成のために『明日もがんばろう！』と思える目標を定めよう。



【マスターズブース】

～これからの学校事務職員の在り方について～
自分たちはどのように学び、育ってきた???

